

指定校番号	28015	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立天満小学校	校長	岸保 仁司	生徒指導主事	笹原洋平
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『年間を見通したたてわり班活動』

取組のねらい『キーワード リーダー性と学年間を越えた密な関係』

- ・ たてわり班活動により、高学年の自治活動を促し、リーダー性を養う。
- ・ 年間を見通した計画を立て、切れ目のない活動を意識することで学年間を越えた密な関係を養う。

取組の具体的内容『キーワード 年間を見通した活動』

- ・ 全職員によるたてわり班打合せ
- ・ たてわり班遠足



- ・ たてわり班での運動会競技



- ・ 校内文化的行事において、たてわり班ごとの出店



- ・ これまでお世話になったリーダーへのたてわり班感謝の会

年間予定	
月	内容
4月	たてわり班編成会
5月	高学年リーダー会 遠足（親睦的行事） 高学年リーダー会 2 運動会（体育的行事）
6月	高学年リーダー会 3 おりづる集会 （児童同士によるおりづるの折り方の教え合い）
9月	授業でたてわり班で道徳的価値について考え共有する
12月	高学年リーダー会 4 プラタナス集会子どもの日 （文化的行事）
2月	卒業を祝う会（リーダー引き継ぎ）
3月	たてわり班感謝会

取組の課題・創意工夫『キーワード 切れ目のない活動にするために』

・ 年度当初のたてわり班打合せでは、兄弟関係や人間関係を考慮して、全教職員参加でたてわり班編成を行い、情報共有を行った。たてわり班で行事を行う際は、事前に、高学年だけのリーダー会を設け、5・6年生は、たてわり班で活動する目標を考えたり、みんなが楽しめるにはどのようにすればいいか話し合ったりした。また各行事をやりっぱなしにしないよう毎時間ふり返りを行い、児童は自身でどのような力が付いたのか、今後の活動を見通してどうしていきたいか等考えた。さらに、考えたことを学級やたてわり班全体で発表し、共有することで活動の継続性を高めていくことができた。

取組の成果（効果）『キーワード リーダー性の高まり・学年を越えた関わり』

- ・高学年はリーダーとしての意識が高まり、たてわり班活動を経て下学年への関わりや声かけ等、日に日に上手くなる様子が見て取れた。
- ・児童の自治意識の変容が見られ、児童には自分たちで行おうとする意識、問題に対して自分たちで何とかしようとする態度の高まりが感じられるようになった。
- ・低・中学年でも自分の得意な場面では、他学年の児童を自然と助ける姿が見られるようになってきた。そうする中で、上学年への憧れや「自分たちもやりたい。」という思いを抱くことができるようになってきた。またクラスの中ではあまり自分の思いを出しにくい児童も、異学年集団の中では自分の役割と活躍の場があり、活動を通して自己肯定感を高められるようになってきている。

今後の展開『キーワード バトンタッチ』

- ・来年度に向けて6年生の姿を見てきたサブリーダーである5年生が、今まで6年生が行ってきた活動を引き継ぐ。6年生は朝会の集合確認やたてわり班の会の進行などのリーダーとしての仕事を、5年生に引き継ぐことで、5年生は最高学年として、6年生は卒業式へ向けて意識を高めていく。

他校へのアドバイス『キーワード ふり返ることの大切さ』

- ・切れ目のない年間を見通した活動とするために、ふり返りを大事にしてきた。毎時間ごとにふり返りを行い、行事が終わるときもふり返りを行ってきた。そして日々の生活や次の活動にどのように繋げていくのか考え、学級やたてわり班で共有することで、児童は1つ1つ事柄を結びつけながら考えられるようになってきた。